

夢塾だより

～ 帰省した塾生の顔 ～

(第73号) 令和5年8月25日

塾を開いて早8年。ほんとに早いものです。県外の大学に進学してお盆休みで帰省し、お土産を持参して挨拶に来る元塾生がいます。

親元を離れて、見知らぬ土地で3～4年の間もまれて過ごしているうちに、格段に成長したのは顔つきに現れます。昔から「かわいい子には旅をさせろ」と言われてきました。その通りです。「井の中の蛙大海を知らず」とも言います。若い時の苦勞は買ってでもやらせるべきです。

その生徒の親御さんからメールをいただきました。

『先生こんにちは！息子と娘が帰省した際に会いたい人がいて、それが私の尊敬する健勇先生であることに幸せを覚えます。ウチの子達は、沖縄には帰らないようですが、自分の置かれた環境で花開いてほしいです。なかなかお会いできませんが、今度おいしいワインを飲みましょう。』（その親御さんも昔の教え子）



30年前までは県外と県内の高校生
の学力差は歴然としていました。沖縄
から県外の国公立大学や有名私立
大学への進学は数えるくらいでした
が、今やどうでしょう。沖縄の高校生
は県外国公立大学や、早稲田・慶応
(早慶)明治、青山学院、立教、中央、
法政(MARCH) 関西大学、関西学
院大学、同志社、立命館(関関同立)
などの名だたる大学にごく普通に進

学しています。(私は現役受験で、早稲田、慶応、法政、みな落ちました)(笑)
彼らには沖縄の地域性・独自性(チムグクル)を生かしつつ、県外のいい面は大いに
取り込める幅の広い人間に育ててほしいと思います。

そして常に「何になりたいか」ではなく「それによって何をしたいか」の精神で皆を
幸せにしてほしいと願っています。